

ホスピス・緩和ケアフォーラム 2013 in 呉

“緩和ケアを考える”

2013年11月4日(祝・月)、広島県呉市の呉市文化ホールにおいて、第26回ホスピス・緩和ケアフォーラムが市民公開講座として開催され、630名が参加されました。内富庸介先生より「がんを抱えた時の心の準備」と題して、いつ誰が罹ってもおかしくない、がんへの対応を分かりやすく語って戴きました。またシンポジウムでは、「地域で取り組む緩和ケア」というテーマで様々な立場から語られ、好評のうちに終えることが出来ました。

開催報告

呉医療センター・中国がんセンター
緩和ケア科 科長 砂田 祥司



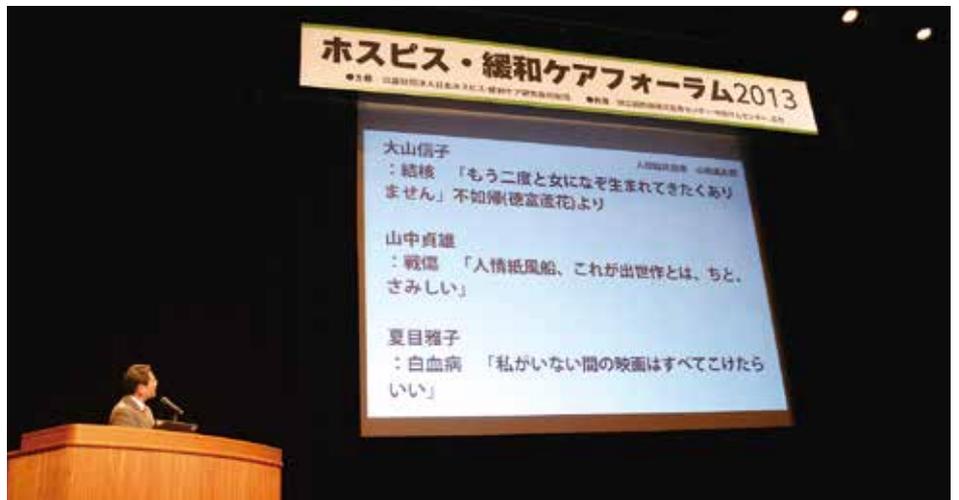
2013年11月4日、呉市文化ホールにて、26回目の「ホスピス・緩和ケアフォーラム in 呉」が開催されました。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団主催、呉市および我々の施設

の共催、医師会を始めとした医療関係機関やマスコミの後援で行われました。

当日は3連休の最終日であり、しかも市内各所でお祭りやイベント等が多数行われているにもかかわらず、630名の参加がありました。行政やマスコミによる広報活動により、多くの市民が参加してくれたものと思われました。

第1部として、シンポジウム「地域で取り組む緩和ケア」を行いました。

呉医療センター緩和ケア科医師砂田



より、がん・緩和ケアについての概説と緩和ケア病棟について話しました。

呉医療センター中西看護師より、がん患者さんに対する説明と同意について話しました。

訪問診療・在宅看取りを積極的に行っている大宇根内科呼吸器科クリニックの大宇根医師より在宅医療に関するお話と、患者さんやご家族の肉声の入ったビデオを示されました。

ボランティアの田平さんと横山さんが、これまでの患者さんとの関わりと緩和ケアに対する思いを話されました。

第2部として、呉市出身のシンガーソングライターの TOMO さんに、ミニコンサート「スマイル LIVE …笑って泣いて 日々笑進…」を行っていただきました。

第3部として、日本における精神腫瘍学の第一人者である、岡山大学教授の内富庸介先生に特別講演「がんを抱えた時の心の準備」を行っていただきました。がんの診断後に生じる落ち込みや不安のケアについて、具体的にやさしく解説していただきました。

本公開講座を通して、一般市民の方に緩和医療についての正しい情報が伝わり、苦痛緩和が行われ、生活の質が向上することを祈念します。



◀ シンガーソングライター TOMO さんのミニコンサート

▶ 特別講演の内富庸介先生 ▶



Hutchinson 先生による Whole Person Care 特別講演会

2013 年 11 月 30 日 (土) 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市) にて、カナダ・ケベック州の McGill 大学教授、Dr.Tom Hutchinson 先生を招き Whole Person Care 特別講演会が開催されました。

Whole Person Care はホスピス財団が力を注いでいる、治療 (Curing) と癒し (Healing) から成る新しいプログラムであり、今回の講演で先生から Whole Person Care の本質が分かりやすく解説されました。2014 年度も Hutchinson 先生をお招きして Whole Person Care ワークショップを計画しております。(お知らせコーナーを参照)

参加者；121 名

*** 参加者の声より ***

● 特に印象に残ったのが、Whole Person Care が目指すところである Curing と Healing の調和について、白蛇 (Curing) と黒蛇 (Healing) の例を用いて分かりやすく説明して下さったことです。

そして、白蛇と黒蛇が絡まっている杖の意味について納得しました。この杖の象徴が Curing と Healing、調和であるということでした。Whole Person Care の意義について理解が深まりました。

● Healing と Curing を分担するのではなく医療者一人一人が両者を兼ね備えておかねばうまくいかない、というのが印象的でした。Placebo のもつ効果について negative でなく positive に考え、その効果が実際に疾患そのものに実際に影響を与える重要性に着目することは、目からうろこの思いでした。



MSW 研修会

2013 年度の MSW 研修会は「緩和ケアネットワーク “気持ちや暮らしを繋ぐ連携のために”」をテーマに、10 月 12 日 (土) ~ 13 日

(日) 鹿児島市、天文館ビジョンホールにて開催され、矢津内科消化器科クリニック院長 矢津 剛先生の基調講演と、田村里子氏、福地智巴氏両講師の講義、ワークショップが持たれました。参加者；27 名
※資料集をホームページに記載致しました。



2013 年度 ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す 実践セミナー に参加して

甲斐 葉月

健寿会 黒木病院 医療ソーシャルワーカー



10月12日~10月13日にかけて鹿児島市内で開催された 2013 年度ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す実践セミナーに参加させていただきました。今回は「緩和ケアネットワーク」をテーマに矢津剛先生の基調講演で、地域での在宅ホスピスの取り組みや実践方法を学び、またワークショップではソーシャルワーカーとして、患者・家族の意思決定を支える考え方、ネットワーク構築のための具体的な実践方法を学びました。

これらの研修で患者・家族が「いつでも、どこでも安心して暮らすことが出来ること」を実現する必要性を強く感じました。しかし現在、自分が 80床の急性期病院で業務する中で患者・家族にかかわりながら「療養先の選択支援」を行っています。患者・家族が望む療養先へ繋げているとは必ずしも言えません。それは現実的にニーズを具現化することができない地域的な実情もあるからですが、それら課題をも乗り越えていくスキルを求められていることも学びました。

これからの自分の課題として、活動場所に限定されることなく、緩和ケアを必要とする患者・家族が過ごしたい (暮らしたい) 場所で、安心して暮らすことが出来るよう支援できるソーシャルワーカーを目指して努力していきたいと思えます。この新たな目標を与えてくださった皆様に心から感謝いたします。これからも機会を捉えて、この研修に参加させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

チャリティ講演会&コンサート

10月26日(土) 大阪ドーンセンターにて開催されました。台風 27 号の接近で開催が心配されましたが、無事に過ぎ去り天候にも恵まれ感謝でした。本田さんの澄んだ歌声と柏木先生のユーモア溢れる講演で、多くの方々からとても良かったと嬉しい声をいただきました。

参加者；269 名



ゴスペルシンガー
本田 路津子さん



講演会演者；柏木哲夫先生 「支えるケア、寄り添うケア」

第5回 グリーフ&ビリーブメント カンファレンス

死別による悲嘆の研究から臨床実践までを含めた学術交流の場として、2月8日(土)に関西学院大学・大阪梅田キャンパスにて開催され、2題の講演と1題の事例検討が発表されました。

講演内容の一部はホスピス財団ホームページで閲覧出来ますので、ご活用ください。

第5回 グリーフ&ビリーブメントカンファレンスに参加して



大谷 恭平

西神戸医療センター 精神・神経科医師

2月8日、大雪が関東を中心に降り続き 20年ぶりに積雪 20cm を記録した日、大阪の会場は熱気に溢れていました。

最初の講演は雪の影響もあり参加できませんでした。が、地域ぐるみの死別ケアという死別・悲嘆を「社会的な苦しみ」の体験ととらえて死別者支援を社会的におこなう、ネットワークを構築するという壮大な計画のお話でした。

午後からは DSM-5 と ICD-11 におけるグリーフの診断学的位置づけという重要な話でした。死別反応は精神的な病気ではないことは変わらず、複雑性悲嘆は病気ではないが今後病気になるかもしれない、うつ病の診断基準から死別反応除外項目が撤廃されたという臨床医にとって貴重な話を詳細に専門家から聞くことが出来ました。

最後の症例検討では予告なしのグループワークであったため驚きましたが、逆に皆さん熱心で知識や情熱が豊富な方ばかり。杞憂に終わりました。グリーフケアについて語れるという貴重な時間を頂きました。

がん患者さんと家族のケアを行って、遺族ケアが必要であることを悟り今回初めて参加したのですが想像した以上に意義深いものとなりました。

こういったグリーフケアについて語れて交流できる場を提供頂いたことに感謝しています。これからの臨床の励みとし、死別に苦悩する方々のケアに還元できればと思います。

お知らせコーナー

2014年度 第4回・第5回・第6回 Whole Person Care ワークショップ 札幌・大阪・福岡 3会場開催

■日時・会場

第4回 7月26日(土) 9:30～19:30

博多 リファレンス博多駅東ビル

第5回 8月9日(土) 9:30～19:30

大阪 千里ライフサイエンスセンター

第6回 8月23日(土) 9:30～19:30

札幌 TKP 札幌ビジネスセンター

*第1～第6回は同じ内容です。

■コーディネーター

恒藤 暁氏 (京都大学大学院医学研究科)

安田 裕子氏 (一般社団法人スピリチュアル研究所)

■参加費 15,000円 (賛助会員は 10,000円)

■定員 各会場 30名

*申込方法等の詳細はホスピス財団ホームページをご覧ください。

Hutchinson 先生による Whole Person Care ワークショップ

日時: 2014年6月22日(日) 9:30～16:00

会場: 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市)

講師: Tom Hutchinson 先生 (カナダ・マギル大学医学部教授)

その他: 同時通訳付

参加費: 8,000円 (賛助会員は 3,000円)

定員: 60名 (定員に達した場合は抽選)

*申込方法等の詳細はホスピス財団ホームページをご覧ください。

こんにちは ホスピス

医療法人社団 洞仁会 洞爺温泉病院

理事長・院長 中谷 玲二

現在、北海道には 15 施設の緩和ケア病棟があり、その内の 10 施設が札幌に集中、札幌以外では旭川に1施設、函館に2施設、室蘭市を含む西胆振に当院を含め2施設があるのみで偏在は顕著です。

当院は洞爺湖の北側に位置し、病院周辺の広大な美しい自然風景は、6年前に開催された先進国首脳会議“北海道・洞爺湖サミット”でも紹介されました。青い空と湖とあふれるような緑は、患者や家族のこころを穏やかにすると同時にスタッフの癒やしにもなり、ゆとりが

洞爺温泉病院 遠景 (洞爺湖を望む)



の癒やしにもなり、ゆとりが生み出すきめ細かなケアの土台と考えています。当院のホスピス・緩和ケア病棟は院内独立型(18床全個室)で、本年6月に開設10周年を迎えます。当初は緩和ケアに対す

る認知度が低く苦労しましたが、がん医療の連携や保健所の“がん専門部会”などの活動を通じて緩和ケアの概念が広がり、最近では地域の多くの患者のニーズに応えています。

ホスピス・緩和ケア病棟で

は、入院後も変化していく様々な苦悩を多職種でとらえ、最期の希望にも応えるよう努力しています。そして患者の充実感や達成感がスタッフ自身の達成感に繋がり、一人ひとりとの出会いから多くを学ばせて頂いています。平成24年より“緩和ケア病棟追悼記念会”を年に一度開催し、故人を偲ぶことを通じてご遺族が互いに励まし合い、ご遺族自身が新たな目標を見いだす場ともなっています。また、市民や医療者への緩和ケアの啓発・普及のために、“市民公開講演会”や“ホスピスセミナー”を開催しています。

今後も当院のホスピス・緩和ケア病棟は、人生の終焉を迎える方々の尊厳を大切に、地域に開かれた施設として連携しながら、緩和ケアの発展に努めて参りたいと考えています。



2013年12月クリスマス会
(病院保育所園児も参加)

ホスピス財団
2014年度 事業計画書 (概略)
(2014年4月～2015年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募1件)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業【J-HOPE III】(第3次調査・第3年度)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2015』(研究論文集+データブック) 作成・刊行事業
4. 治療効果・安全性に関する多施設データベース研究事業(第2年度)
5. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査
6. ソーシャルワーカーのスキルアップ研修セミナー開催事業
7. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
8. 第4回、第5回、第6回 Whole Person Care ワークショップ開催事業
9. グリーフケア研修セミナー開催事業
10. Hutchinson 先生によるワークショップ開催事業
11. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
12. 『これからのとき』等、事業啓発のための冊子増刷
13. 一般広報活動事業
14. アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア研究事業
15. アジア太平洋ホスピスネットワーク (APHN) 関連事業
16. 日本・韓国・台湾 共同研究事業の予備会議

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

また、「遺贈」による寄附もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄附、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは06-6375-7255です。

ホスピス財団
2014年度収支予算書 (概要)

2014年4月1日から2015年3月31日まで

(単位：千円)

科目	2014年度予算	摘要
【経常収益】		
①基本財産運用益	3,760	
②受取寄付金	27,000	
(内訳) 賛助会費収入	26,000	
一般寄付金収入	1,000	
③雑収益	1,095	
経常収益計 (A)	31,855	
【経常費用】		
①事業運営費	37,028	
(内訳) 公益事業1	18,351	ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業
公益事業2	10,152	ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業
公益事業3	6,228	ホスピス・緩和ケアに関する広報事業
公益事業4	2,297	ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業
②一般管理費	6,027	
経常費用計 (B)	43,055	
当期経常増減額 (A-B)	▲11,200	不足分は前期繰越金等で充当予定

近刊紹介

遠藤周作

笑って死にたい

著者 60代の頃に書かれた“老い”と“死”をテーマにしたエッセイが集められている。重いテーマにも拘らず、氏の手にかかると独特のユーモア溢れた、肩の凝らない小品集となっている。

一方、30年近く前に既に、ホスピスやデス・エデュケーションの必要性を説いていた氏の慧眼には驚かされる。遠藤ファンならずとも、一読をお薦めしたい。(河出書房新社 2013.9刊 798円)



寄付者一覧 (2013年8月～2014年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 島田禎子記念寄付 井上 幸子 軽込 妙子
辻本 和子 森本嘉代子 濱門慶太郎
匿名 3名
- (団体) 宗教法人 持宝寺
阪神聖書研究会
株式会社 医学映像教育センター
日本メソナイトプレザレン教団 石橋キリスト教会
関学英文科同窓会

新規賛助会員 (2013年8月～2014年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 中村 純子 谷垣 幸代 本田めぐみ
匿名 3名
- (団体) 小牧市民病院
すえなが内科在宅診療所
社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院
医療法人 博仁会 志村大宮病院
医療法人財団 健和会 柳原病院
医療法人財団 健和会 みさと健和病院
昭和薬品化工株式会社

編集後記

今年も桜の季節を迎え、また一年、年をとってしまった。そして東日本大震災から3年目、あの2万人の魂はどこへいったのかとふと思う。

NHKテレビで臨死体験を研究する国際学会がパリで開催され、2500名の参加があったと言う。臨死体験した人達の多くが一様に語るの、長いトンネルを通りそこを抜けると目まはりの光の世界が見えたという。ならば、それが我が身にも事実であってほしいと願うものである。

近刊紹介、遠藤周作「笑って死にたい」の中の一句が心に響いた。

“死に支度 いたせいたせと 桜かな”
小林一茶